

デイ通信 (題字) 伊安登子

令和2年4月1日発行
 デイサービスセンター アウル

『96歳の婦長さん』

わたしが、特別養護老人ホームの寮父時代にお世話になった看護師（当時は婦長）さんがいます。当時は、看護と介護の間で、お互いの正しさばかり主張して、なかなか折り合いがつかないことだらけで、ことある毎に衝突していました。衝突の要因は、それぞれの持つ専門性の主張でした。

しかし、話し合いの繰り返しの結果、次第に焦点を自分たちの専門性の主張ではなく、お爺さんお婆さんにとって何がベストなのか目的に、それぞれの専門性をどう発揮していこうかに焦点を当てて話をしつと、お互い実際の看護や介護がうまくかみ合うようになつていきました。その方にとって、とてもいい感じになつていったのを感じています。

その基本となつたのが、どこに焦点を合わせるかでした。人はそれを目標、目的、到達点、目指す方向、理念などなどと様々に表現されますが、その本質は、目の前にいる方の“生きる幸せ”にどう応じられるかだと思ひました。そしてお互いの仕事の目的を共有することで、互いの人格を尊重する関係へと繋がつていったのです。

その婦長さんは、今現在、96歳で現役の看護師さんとして、デイサービスセンターで利用者様の健康をチェックするなどの仕事をしてひています。凄いです。僕は尊敬を通り越して、神様だと思ひています。

わたしの「人」としてのお手本は婦長さんです。

わたしたちは、パズルのピースのひとつです。それぞれがそれぞれの場所で輝くように生きることでないでしょうか。わたしたちの前にはいろんな壁が立ちただけあります。でもどの壁も「お互いに補ひ合うことで乗り越えられる壁」ばかりです。きっとわたしたちは、この壁に立ち向かえられるように、バラバラな形をしてひているのだと思ひます。お互いの穴や凹みを補ひるように。

感謝

アウル 宮崎直人



3月のお誕生日
 高橋クニ様 昭和5年 3月17日
 おめでとう
 ございます! 90歳



皆様でちし寿司
 午後からは桜餅を
 作り食ました。



<昼食献立>
 ちし寿司 15時すぎに
 茶碗蒸し 桜餅
 里芋の煮物
 バンバンジー

調理では男性陣も
 大活躍です!!

